

環境大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野	受賞者名	
	株式会社黒田工業	
	取組の実践場所	
	宮崎県日向市、延岡市	
	受賞テーマ	
	プラスチックリサイクル事業の実践と 3R 活動による SDGs への挑戦	
受賞者は、宮崎県に拠点を置く廃棄物のリサイクルを行う企業である。同社は 1964 年に延岡市で創業し、1968 年に法人を設立し、農業用廃プラスチック類を中心にリサイクルを行ってきた。 農業用フィルムの廃棄物は、その泥や農薬といった残渣の付着が原因でリサイクルが困難とされてきた。一方で、再生原料としては、強度面でも品質が高く、添加物としての価値が高いことから、当時はフィルムをまともに切る破砕機も国内でなかなかない中で、破砕・洗浄方法等を研究してきた。 1970 年代の後半には、発生する廃農ビの農ビパウダー（グラッシュ）化を確立し、建材メーカーのビニール床タイルとして安定した品質、安定した供給を今も継続している。 農業用フィルムの廃棄物に関しては、産業廃棄物の性質上、事業範囲がある程度、地域と取扱により分担されており、また、大型の設備投資も必要ことから、農業用フィルムとプラスチックのリサイクル事業を実質稼働しているのは全国でも数社しかない状況である。また、廃棄物処理事業における労働力不足は極めて深刻であり、同社も含む地方都市の廃棄物処理業者には極めて重要な経営課題である。 こうした中で同社は、『真の循環型社会の構築』を目指し、2007 年に日向市工業団地内に「ひゅうがりサイクルセンター」を建設。完全民間施設では異例の日向市・門川町・美郷町・諸塚村・椎葉村の粗大・不燃ごみ及び資源物(PET ボトル、瓶、缶、プラ製容器包装等)の一般廃棄物の全量を回収し処理を行っている。 また、同センターでは産業廃棄物の処理、廃プラスチック類の再商品化、固形燃料(RPF)の製造等の複合型処理施設として多岐にわたる廃棄物の一括した処理を行っている。 複合型処理施設にして、一般廃棄物と産業廃棄物の枠組を外して一括処理することにより、可燃性の廃棄物の単純焼却を減らし、最終処分の延命化に寄与しようとしている。 更に、労働力不足の点では、2015 年に就労継続 A 型事業所の「HRCplus」を設立し、障がい者の力を借りて、また障がい者の雇用促進を軸に、労働力不足解消を進めている。 これらより、環境、福祉、農業用廃プラのリサイクル、そして、再生プラスチック原料の製造と異なる分野にまたがる複合的な事業を通じて、社会貢献につなげようとしている。 同社にとって、これらはゼロエミッションの実現であり、同社の経営課題の解決であり、そして持続可能な開発目標（SDGs）への挑戦である。		
※リサイクルされた製品		
農ビパウダー	農ポリペレット	固形燃料(RPF)
		